河内賢隆先生と小笠原隆元先生のこと

岡　﨑　壽一郎

第一群（旧英語科）の主柱であられた河内賢隆先生と小笠原隆元先生がこの三月に定年をまたずに大学を去られました。地元の名望家であられるご二人のご事情は、理解しながらも、一瞬、いいようのない空白感が脳裏をよぎりました。河内賢隆先生は、ご専門のシェイクスピア研究のことは、言うまでもなく、人も知る簡明な訳文の翻訳家でした。しかし、先生には、私にとって忘れ難い感謝の思いがあります。私が在外研究の折に、先生は、その達意で洗練された英文で、Cambridge大学のWolfson Collegeに推薦文を書いてくださいました。

小笠原隆元先生は、私には、格別の存在でした。とかく圭角の多い私を、いつも温容な人柄で支持してくださいました。英語を読むことも、書くことも、話すことも、まったく自由におできになられた先生は、温顔をくずされることのなかった学究でした。しかし、その先生は、また、微笑を絶やすことなく、寸鉄人を殺す言葉で発言された論客でした。河内賢隆先生、有り難とうございました。小笠原隆元先生、有り難とうございました。どうぞいつまでもご元気でいてください。